

体系防除による大豆の難防除雑草対策

相双農林事務所農業振興普及部

1. 実証内容

難防除雑草の除草には主に茎葉処理剤（ベンタゾン液剤）を用いているが、効果のある草種に限られており、十分な除草効果が得られていない。そこで、ベンタゾン液剤と新農薬との体系防除による除草効果及び薬害発生程度を確認する。

2. 実証方法

- (1) 実証ほ場 南相馬市原町区
- (2) 区の設定 資材と処理時期は表1のとおりとした。
- (3) 播種日 6/14（播種量 5kg/10a）
- (4) 品種名 タチナガハ
- (5) 調査項目 生育、収量及び除草・薬害程度

表1 処理区の設定

区名	剤名（処理時期）
実証区	ロロックス・ラッソー乳剤(6/14) アタックショット乳剤(7/30) 大豆バサグラン(8/24)
慣行区	ロロックス・ラッソー乳剤(6/14) ナブ乳剤(6/29)、ホルトフロアブル(7/29) 大豆バサグラン(8/24)

3. 実証結果

(1) 生育

播種時期の長雨の影響により、慣行区・実証区ともに初期生育は緩慢で、一部発芽不良が発生した。実証区では湿害発生程度が大きく、草丈・主茎長・主茎節数ともに慣行区を下回った（表2）

表2 生育調査結果

区名	草丈 (cm)		主茎長 (cm)		主茎節数 (節)		葉数	
	7/22	8/7	7/22	8/7	7/22	8/7	7/22	8/7
実証区	25.8	60.4	17.4	34.9	8.6	14.0	2.5	8.5
慣行区	28.5	67.3	28.5	38.7	8.8	13.5	3.4	9.0

(2) 収量

台風19号及びその後の集中豪雨により、調査区で浸水・倒伏被害が発生したことから、データ省略。

(3) 除草・薬害

体系処理後（9/4調査）の雑草の発生量は、実証区が慣行区を大きく下回った（図1）。また、通常の大豆バサグラン処理で除草効果が低いヒユ科雑草に対しても、高い除草効果が示された（図2）。

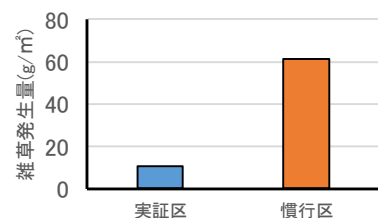


図1 処理後の雑草発生量

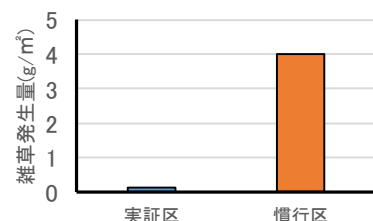


図2 処理後のヒユ科雑草発生量

4. まとめ

アタックショット乳剤と大豆バサグランの体系処理による大豆の難防除雑草への除草効果が確認された。草種に応じた体系処理技術のひとつとして普及を図り、更なる高品質化を目指す。